

平成27年度 第1回魚津市総合教育会議 議事録

平成27年10月1日(木)午後4時～
(魚津市役所第一会議室)

【出席者】市長 澤崎 義敬
教育長 畠山 敏一
教育委員 大野 聡一、島津 豊、宮本 玲子、細川 祝

事務局(企画総務部長、教育委員会次長、企画政策課長、教育総務課長代理)
ほか

【議事録】

事務局	<p>予定の時間となりましたので、ただいまから平成27年度 第1回 魚津市総合教育会議を開会いたします。(資料確認)</p> <p>それでは、会議の開会にあたり、魚津市長 澤崎義敬が一言ごあいさつを申し上げます。</p>
市長	<p>(あいさつ) 皆様、本日は魚津市総合教育会議に、ご出席いただきまして、ありがとうございます。</p> <p>昨年、地方教育行政の組織及び運営に関する法律が改正され、①首長による大綱の策定、②総合教育会議の設置、③教育長と教育委員長を一本化した新たな責任者(新教育長)の設置などを盛り込んだ 新たな教育委員会制度が示されました。</p> <p>この総合教育会議については、市長と教育委員会が、十分な意思疎通を図り、地域の教育課題やあるべき姿を共有して、協議を行う場として設けられたものであります。この改正まで教育委員会は市長部局が踏み込んではいけない聖域とっておりましたがこれからは連携していこうとっております。今まで同様、魚津市の教育の在り方について互いに連携し、会合を持たれることを期待したいとっております。新しい年度までに魚津市の大綱を定めてまいりたいとっておりますので皆様にはよろしく願いしたいと思っております。</p>
司会者	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、議事に入りますが、ここからの議事の進行は、市長にお願いしたいと思いますので、よろしく申し上げます。</p>
市長	<p>初めての進行になりますので、説明は事務局にお願いしたいと思います。まず、魚津市総合教育会議の設置について説明をお願いします。</p>

<p>事務局</p>	<p>お手元の資料にあります魚津市総合教育会議設置要綱および運営要領について説明します。昨年法律が改正され今年の4月1日から施行されている法律あるいは国からの通知に基づき、要綱や運営要領を定めております。</p> <p>まず、設置要綱の中にあります設置ですが、地方公共団体の長は、教育學術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱を定めるための協議であるとか教育を行うための諸条件の整備、その他の地域の実情に応じた教育學術及び文化の振興を図るために重点的に講ずべき施策もう一つは児童・生徒等の生命または身体に現に被害が生じ、またはまさに被害が生じる恐れがあると見込まれる場合等の緊急の場合に講ずべき措置などの協議を行うために、この総合教育会議を設けるということになっております。(要綱・要領の説明)</p>
<p>市長</p>	<p>この改正は、大阪などでのいじめの問題が広がったことだった。今までは教育委員会が招集してということだったが市長が招集するというので私は違和感がありますが、かたい話し合いではないということでご理解をいただきたい。事務局の説明に対し、率直にご質疑があればお願いしたいと思います。これからはこの会議が公開で行われるということが原則であるのでご承知おきをお願いしたいと思います。</p>
<p>事務局</p>	<p>次に、議事2の「魚津市教育大綱（仮称）について」事務局から説明をお願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>魚津市教育大綱について教育委員会から説明させていただきます。</p> <p>地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律が本年4月1日に施行され総合教育会議において教育に関する大綱を首長が策定することとされ、首長及び教育委員会は策定した大綱のもとにそれぞれの所管する事務を執行することとされました。現在富山県をはじめいくつかの自治体で大綱の策定が進められております。一方で、この大綱については、教育基本法に基づき策定する教育振興基本計画の施策の目標ですとか施策の根本となる方針を大綱と位置付けることができるとされております。総合教育会議において当該計画をもって大綱に代えると判断した場合は、別途大綱を策定する必要はないとされているところであります。</p> <p>文科省が本年6月に行いました調査によると、大綱策定済みの自治体のうち、過半数が既存の計画をもって充てているといった状況であります。本市の場合、昨年度から教育振興基本計画の作業を進めている途中であります。また魚津市総合計画基本計画も策定中であります。こうしたことから事務局</p>

	<p>といたしましては、市長の教育に関する基本方針をこれらの計画に十分反映することができることから、教育振興基本計画をもって大綱とすることを提案させていただきたいと思っております。</p> <p>お手元の教育振興基本計画（素案）ですが平成28年度から32年度の5か年を計画期間としております。これまでに外部の識者による策定委員会を3回開催しており素案としてまとめられたものです。参考に77ページに策定委員の名簿を掲載しております。会長には、富山大学人間発達科学部の笹田准教授、副会長に商工会議所副会頭の大愛さんほか学校教育、社会教育、スポーツ文化等の各分野の方々に就任していただいているところです。本日の会議におけるこの後の市長、教育長、教育委員のみなさんの意見交換の内容ですとか、今後11月に行うパブリックコメントを受けてさらに内容の加筆修正を行い、年度内に再度総合教育会議を開催して大綱として最終確認していただければと考えております。それでは簡単に計画素案の構成を説明します。（素案の説明）</p> <p>市長</p> <p>大綱というとなりに難しそうに思いますが、説明がありましたように魚津市は教育振興基本計画が最終的には大綱となるものという位置づけでありますので皆さん方から率直に意見をいただきながら基本計画が大綱に結びついていくための確認などを中心にした話しをさせていただければと思っております。資料については事前配布もしてあるということですからご指摘があればいただくという形で進めたいと思っております。</p> <p>次に、議事3の「教育行政について」に入りますが、議事の総括的なものもまとめてこの後も議題にしたいと思っております。教育行政についてということですから意見交換ということにさせていただきます。各委員から計画に基づいたご意見をいただきまして大綱を作るうえで反映させていただければと思っております。</p> <p>先ずは、大野委員からお願いします。</p> <p>大野委員</p> <p>教育の基本というのはふるさとを愛する心を育む、それが教育の原点なんだと思っております。基本理念の部分が非常にいいと思っております。将来は世界に飛躍する人材を育成していこうという発想は素晴らしいと思っております。ぜひ、これの実現のために計画がうまくいくことを願っています。この頃思うのですがせっかく魚津市がほかに先駆けて12校を4校に統合するということは非常に素晴らしいと思うのですが、新しい新設校ができるのだから教育の部分で柔軟性を持たせることが重要だなと思っております。たとえば小学校1、2、3年生には少人数学級にするとか、中学年から6年生くらいまでは少しずつ人数を増やした団体教育をやっていくとか学級数の柔軟というこ</p>
--	---

	<p>ととか、担任・副担任がせつかくおられるのだから、教員数を減らすことなく、うまく、授業に結び付けていけたらいいと思います。この前、イギリス人がホームステイに来ていて、孫が英語に興味を抱いており、まだ幼稚園ですが、若いうちに英語教育に触れさせることで、かなりワールドワイドな発想、グローバルな発想になっていくのかなと思います。小学校に一人ずつALTをおいて、今日は英語しかしゃべらない日とかそれくらい柔軟な教育、魚津しかできない教育をやっていてもいいのかなと思います。</p> <p>あとは、魚津市の総合戦略会議にも出ているが、人口が減っている中で、3万人維持するにはどうしたらいいかという話をしているが、教育部門でも特色を持たせることで、魚津で教育を受けさせたい、住ませようという人たちが増えることを願います。魚津でしかできない新しい教育を他に先駆けてやれる部分を柔軟に教育委員会で考えていければいいと思います。YKKが本社移転で黒部市にこられますが、ぜひ魚津市に住んでいただくくらいの教育ができればいいなと思います。夢ですがそう思います。</p> <p>市長 YKKの会長と話しておりますと、パッシブタウンを作るということで東京から黒部に住ませようとしたら、奥さんが、子どもの教育、買い物における利便性などを重視しているということです。魚津の市役所周辺、駅前あたりがいろんな利便性が高いという話も聞いております。大野委員が言われたように、実際にここで住んでみて暮らしやすいかどうかというところがあり、東洋経済新報では魚津市が上位にランクされており、魚津の人自身が何で魚津がと言っているくらいのところがあります。子ども達に見せてどう思うかを反映させられたらと思います。それでは島津委員、何かご意見があればお願いします。</p> <p>島津委員 私もふるさとを大事にするという考えに大賛成で、こちらの資料にある絵なんかを見ても思うのですが、私が学生の頃、よくワイエスイレブンでスカイメイトというのが昔あったのですが、あれで帰ってきた時にちょうど富山湾の上を旋回しながら降りてくるんですけど、その時のふるさとのきれいさは世界でも群を抜いているんじゃないかと、山あり海あり湾ありで、石川の方の能登半島の風景がいいということで、その中に生まれて幸せだなと。食べるものもおいしいし、若いころは野を駆け回り、川に入りという自然体験もたくさんできるというように、都会の人たちに体験できないものを提供できる素材はたくさんあると思うんです。たとえばハード面にこだわらなくてもソフト面でもっと知恵を出せば発展、発達していけるのではないかと思います。</p> <p>あとは、生涯スポーツの方もやっておりまして、とくに県民体育大会にずっと出ており、最近はずぐ負けてしまうのですが、ほかの市町村を見ている</p>
--	---

	<p>と小さい時から教育されていて、ただ、英才教育はよくなかったなというのは出ています。今、体育協会でもいろんなアスリートを育てようとしておられ、いいことだなと思います。すぐにできなくても石川選手のように社会人になってから大きく成長される方もいらっしゃるのでぜひ長いスパンで見てもやればいいのかと思います。</p>
<p>市長</p>	<p>魚津人は控えめという表現もありますが、子どもの時からいろいろと機会を広げてやる方がいいのかなと思います。先般、片貝小学校と西布施小学校の4, 5, 6年生に思い出づくりということで東京に行かせました。国会議事堂の見学とか首相官邸の記者会見の場所も特別に行って、いい経験をさせてもらいました。子ども達の文集を見ても感動したと書いていました。先生も喜んでいたようです。</p> <p>昔、片貝小学校の子どもたちを東京へ初めて連れて行ったとき、山の子でも都会へ行って課外授業みたいな形で見学できるということをしました。今の子は、なかなか話を聞かないということもあり、しつけみたいな部分も感じましたが、のびのびとやっているという側面もあります。このような体験を積んで、子どもの時から格差とかそういう意識を持たないで育つような環境も必要かなと思います。</p> <p>宮本委員、いかがですか。</p>
<p>宮本委員</p>	<p>孫を通しての思いですが、先生方は本当に忙しいです。多くの業務を抱えて授業の準備にける時間があるのだろうかという心配をしなければならぬような現状があります。それで、何か私たちのように家にいる者や地域がこれからどんどんと支援をしなければいけない必要があると思います。ICT環境も進むでしょうし、生徒指導にもきめ細かく当たっていくとなると、ますます先生方には負担が増えます。かといってどうやって学校に支援をしたらよいかと考えてもなかなか方策は出てこないのですが、みんなでしていく体制を作っていくと、ますます多忙化が進んでいくと思うので、ここにも教育支援とかを謳っていますがそれをいかにして支援策を探っていくかっていうことが大事なことだと思っています。</p>
<p>市長</p>	<p>魚津市は段々と地域の差というか地域の特性が大事、歴史が大事、文化が大事といって、地域の在り方が問われている部分がたくさんあるわけで、市街地、村木や大町の高齢化が進んでいる、農村と言われたところに住宅団地ができ、従来から住んでいる人と新しく住まれた人がどうコラボして地域生活をやるのかといった課題はありますが、とりあえずは来年の4月から、地域振興会を中心に、子どもから高齢者までが地域の構成員であることから、地域で福祉をやる、教育的なしつけをやるとか、地域社会における子どもたちの在り方とか関わり方というものを重視した取り組みに、来年からシフト</p>

	<p>していきたいと思います。</p> <p>今タウンミーティングをやっておりまして、いくつかの地域で共通点だなと思いましたが、地区のお世話をしている方々は、子どもたちは地区の宝だとおっしゃいます。ところが学校という世界がどうもおかしいんじゃないかということでこの会議で必ず言うと言ってきたのですが、地区の体育大会は、子供からお年寄りまでみんな参加をする地域の人たちの交流の場なんです。学校の運動会とは違って地域の人と地域意識を互いに持ちながらやるものです。それで、その方がおっしゃるには、子どもをリレーに出したいと言ったら、その日は部活があるから駄目ですと言われたということです。私は、総合教育会議のメンバーになりますから、その日は部活やめていただくよう申し入れをさせて頂いてきました。ぜひ、子どもたちの小さい時から社会の中に入れていたいと思っています。学校と自宅の往復だけでは、地域愛は育たないと思います。何かの大会で都合が悪いというのならわかるが、学校の部活と言われたら、中学生はみんな参加してくれないとなり、学校の先生が、部活があるから地区の運動会には出なくていいと指導しているようなものです。その日だけは部活をやらないということにしてほしい。こういう機会がなければ、どこの子どもかもわからないことになります。</p> <p>それでは細川委員いかがでしょうか。</p>
細川委員	<p>7年前までは東京に住んでおりまして、7年前からこちらで家族で過ごしております。魚津市の売りというか強みだと思いますのは、やっぱり安心感・安全感が強いなというのが実際暮らしてみても印象です。都会の方で過ごしておりますと、買い物一つにしても命がけです。子ども2人おりますので生きて帰ってくるだけで精一杯というのが本当にありまして、妊娠中も仕事に行って生きて帰ってくることが目標というくらい、命の危険を感じていました。こちらに来てからは危機意識が薄くなってよくないなと思うこともありますが、地震も少ないですし、本当に安心して生活ができる、子育てに関して危険だからとか危ないからとかそういうことではなく、子どもたちがどうすれば豊かに生活できるかということを考えながら生活させてあげられるという点ではよかったなと思います。</p>
市長	<p>ぜひ、こんないいところがあるんですよ、都会はこんなひどいんですよということを教えてあげてください。</p> <p>これもタウンミーティングで感じたのですが、若いお母さん世代が、私の家の周りには防犯カメラがないと言われます。街灯もなく危険だと言われます。学校や危険個所にはカメラが設置してあります。都会にあるものを全部しなければ安心できないということですが、農村にカメラがいるのかどうか。空き巣でもあれば、つけておけばよかったということになりましようが、隣の人も信用できない社会にしまつてどうするんだと私は思います。親</p>

子の家庭が基本です。母親と娘は親子。娘と父親は横の関係だと言います。学校ではできない家庭教育の部分もあります。これから道德教育もどういう形で展開されるかも含めて考えてまいりたいと思います。防犯カメラがほしくなるような報道がされますが子どもの時からいろんな目線を養うことが大事です。今の親はちょっとでも不安があると行政にやってくれと言われ、子どものころからそう育つと権利だ自由だというところになってしまふ。自分の人権が大事で他人の人権はどうでもいいというところになってくると困るので、ぜひ、子ども達を社会参加させるということ機会をぜひ作っていただきたいと思います。

では教育長に総括的な部分でお話しいただきたいと思います。

教育長

私も教育長を市長から任命いただいてから半年たちました。自分でも初心を思い出す意味でお話ししますと、学校教育ということであれば、非常に大事なものは不易と言われる知・徳・体という3つの柱を忘れてはいけないなと思います。この3つを子どもたちにいかにバランスよく身につけさせるかということが一番大事な学校教育だと思っております。

魚津市の問題としては統合ということがあります。この統合校をいかにスムーズに進めるかということが市の教育委員会としては大きな責任だろうと思っております。簡単に言えばハード面とソフト面を充実させて、魚津の教育の中身を充実させていこうと思っているわけですが、予算も伴うこととなりますのでまた、市長と相談をしながら進めていきたいと考えております。その中の特にソフト面についてですが、ふるさと教育については重点に置いて進めていきたいというのが私の思いです。現在も各学校で単発的にいろいろと取り組まれており、それを一回整理をして魚津市として小学校から中学校まで義務教育の中でカリキュラムに組み込んで、きちんと、義務教育が終わるころには魚津市というものをしっかり理解をして次の段階にいける、そういう子どもたちを育て、ゆくゆくは魚津の素晴らしさをもとにして、また帰ってきていただくといった、そういうことができないかと思っております。ふるさと教育というと、自然とか歴史・文化、歴史上の人物というところですが、それに加え、今おられる高齢者、人生の先輩というか、こういう方々の力を何とか生かせないものかと思っております。

市長も言われる3世代家族が大事だとの話もありますが、実はしつこくいうのは3世代家族の中でこれまで行われてきた面が非常に大きいんじゃないかと思っております。あるいは生活の知恵、人との交わりをするときにはこういうことが大事だよということをお年寄りから教わるということが多いと思うわけです。今、年配の方々がたくさんおられるわけで、そういう方々の知恵だとかを何か生かせないかと思っている段階であります。指導要領も

	<p>新しくなりますし、これからもいろいろと変わってきますが、知・徳・体という柱、時代がどんなに変化しても変わることはないものっていうのは忘れてはいけないし、それを基本にしながら、時代の流れに応じた流行のものを取り入れていかなければならないと思っています。今後、どのように具体化していくかということは委員の皆さん、市長さんと相談しながら進めていけたらいいと思っております。</p>
<p>市長</p>	<p>社会保障に予算も使われて、どうしても避けられないものがあります。小学校などの世界でゆとり教育というものが言われ、魚津が先覚者だといいいながら、放課後対策という言葉がでてきて、子どもに放課後という言葉があるのかと思った。私は学校が終わったら近所の川で遊んでいたものです。片貝小学校が交流していた小千谷市の片貝小学校に、統合前の最後に片貝小学校と西布施小学校の子どもたちが行ってきた際に、一緒にせりこみ蝶六を踊ってきて、魚津の小学生は全員踊れますと言ったら大変驚いておられました。魚津の環境は素晴らしいが、子どもが少ないというのは気の毒だと言っておられました。それだけ環境が整っていても土日も部活や塾ということで放課後も管理体制にあるような状態ではゆとりであるかどうかという話になります。みんながするから、一人の子だけ家にいてもしょうがない。世の中本当のゆとりというか、学校から帰ってきて子どもと半日遊んだりしてということがないということで、それに代わるものを考えるのが我々の課題であります。</p> <p>変わったことをやると成績が落ちるといった話もあります。事態をわかっているのは先生方と教育委員会であります。スポーツの強い街であったり、芸術に優れた子どもを育てたりいろんな多面的な才能を育てられるような教育があればいいと思っております。今日は第1回目ということで、これから教育改革あるいは教育大綱策定に向けた仕事が始まるということでこの会議はこの程度とさせていただきます。</p>
<p>事務局</p>	<p>市長、どうもありがとうございました。</p> <p>それでは、これで本日の会議を終わります。委員の皆様、お疲れ様でした。</p>